

【池田地区】

地区別の主なご意見・ご質問と回答・見解

(統合全般)

ご意見・ご質問	回答・見解
令和１８年度の生徒数からみると、今後は、沼田中学校と統合することもあるのではないかな。	本素案は、地域性に配慮するとともに令和１８年度までの児童生徒数を見据えた上で、市内全域の小中学校の適正規模・適正配置の観点からお示ししたものであります。
規模の大きい学校へ通うことが義務教育における平等ではないかな。	学校教育では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成に注力して取り組んでいます。様々な理由により、教育格差が生じないように、学校、保護者、地域、関係機関等で連携・協働してより良い教育環境を整備できるよう努めてまいります。
小規模特認校は、やむを得ないが、池田以外の地区は、選択肢があり、池田地区は、選択肢がない。薄根小学校を選べるようになるといい。	様々なご意見があることを認識いたしました。 本市では、児童生徒が通学する小・中学校を、あらかじめ定められた通学区域に基づき指定しており、原則、学校を自由に選択することはできません。 小規模特認校制度を導入することで、希望により市内全域から小規模特認校を選択できるようになり、小規模校の維持及び教育活動の一層の活性化が期待されます。
池田小学校に通わなくてはいけないとなっているが、沼田小学校や沼田北小学校へ行く権利を与えてほしい。	
池田小学校の小規模特認校への移行は良い案だと思う。特に中学校について、他の地域も見直した方がよいのではないかな。	
池田小学校の小規模特認校には反対。沼田東小学校への統合を希望する。	
他校学区の子は池田も選べて、更に中学校は、学区の中学校か池田の子と同じ薄根中学校を選べる。(このことは説明会で説明も言及もなかった)あまりにも不平等である。	
池田小学校と池田中学校は小中一貫校ではないが、池田中学校から中学生がいなくなることで、更に小学校が寂しく感じる。	池田地区では小学校と中学校が隣接する恵まれた環境にありますが、小学校、中学校それぞれの成長段階に応じて、より良い教育環境が整備できるよう努めてまいります。

(教育環境)

ご意見・ご質問	回答・見解
小規模特認校で魅力的な教育と言うが、地域に根差した教育は既に行っているため、それをして差別化できないのではないかな。	これまでも池田地区は、地域社会と学校が連携して教育活動を充実してきていると認識しており、今後も豊かな地域資源を生かし、地域と連携・協働しながら、多様な学力向上策や体験活動を実施していけるものと考えております。
統合時期に中学３年生の生徒に対して、高校入試へのサポートはあるのか。	統合の有無に関わらず、適切な情報提供や相談、きめ細かな指導・支援に努めてまいります。
まず、責任を持った回答をしてほしい。この素案は、本筋を言わずに、	子供たちにとってよりよい教育環境を提供できるよう努めてまいります。

【池田地区】

地区別の主なご意見・ご質問と回答・見解

きれいごとばかりである。池田小学校が小規模特認校になる場合、教育課程の移行措置はないのか。小中一貫校になるが、池田小学校をどう考えるのか。	す。 教育課程については、統合後の将来ビジョンを共有し、統合対象各地域の文化・地理・歴史・産業等の教育資源を積極的に活用した教育活動を展開できるよう、複数年かけて丁寧に検討してまいります。
説明会では、しきりに「地域が主体」のような責任逃れ、押し付けとも取れるスタンスが散見された。緊張感と責任を持ってもらわなければ困る。	

(学校間交流)

ご意見・ご質問	回答・見解
子供の不安要素を和らげられる取組を考えているか。薄根地区の子供と池田の子供の交流をどのくらいもつのか。	環境の変化や人間関係づくりにおいて生じる不安や戸惑いを軽減できるよう、学校行事や部活動等における児童生徒同士の交流、対面やＩＣＴ活用による合同授業の実施、不安や悩みに関するアンケート調査の実施と対応、児童生徒が活躍できる機会の意図的な設定など、工夫した取組に努めてまいります。

(保護者・地域への説明)

ご意見・ご質問	回答・見解
小規模特認校のメリットが一般の人には分からないので不安になってしまう。素案も最短のスケジュールということだが、新聞や広報を見てショックが大きかった。地域も協力していくことが必要なので、意見をすり合わせ、もっと話す必要があるのではないか。	きめ細かな指導・支援による学力向上、児童の活躍の機会の設定、異学年交流による社会性の育成、郷土の教育資源を最大限に生かした取組の展開など、小規模特認校だからこそ実現できる教育活動のメリットは、今後必要に応じて丁寧に説明してまいります。
池田小のＰＴＡ総会で統合についての説明していただけないか。	１月１７日は中学校の授業参観日にあわせ、また、１９日は週休日を活用し、池田地区コミュニティセンターで説明会を開催する予定です。今後も引き続き、学校と情報を共有しながら進めてまいります。
全ての説明会の後に、質問を公表してほしい。	多くのご意見やご質問をいただいております、主なものについて沼田市ホームページにおいて公表予定です。
池田小中学校の児童生徒数の少なさから、合併を望んでいたが、様々なメリットとデメリット、スクールバスの手配などの情報等が不足しており、具体的なイメージがつかない。	１月１７日及び１９日の説明会では、具体的な事項についても想定できる範囲でご説明いたします。

(その他)

ご意見・ご質問	回答・見解
持続可能な地域づくりに学校の存在は重要だが、子どもの学校生活の方が大事と考える。	学校では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成に取り組んでおり、教育環境をより一層充実させられるよう統合についても検討していきたいと考えております。

【池田地区】

地区別の主なご意見・ご質問と回答・見解

小規模特認校にどれくらい人数がくるのか、どんな子が来るのか。様々な子が来ると思うと不安。	県内外の小規模特認校について、視察・情報収集を行っています。入学を希望する児童数の実態は多種多様です。少人数教育や豊かな自然環境の中で育てたいという一定数のニーズもあり、個人が尊重され、自己肯定感を高められる学校生活に好印象を受けているという話も伺っております。
小中一貫校では、中１ギャップが解消できるということだが、池田小学校から薄根中学校に行く子供の対応は考えているのか。また、小規模特認校ではなく義務教育学校にはならないのか。せっかく地域に根差したものがあるので、池田地区こそ義務教育学校にと思う。	小学校から中学校への円滑な接続については、当該校における児童生徒同士の日常的な交流、教員の兼務による系統性のある指導や児童生徒理解が重要であると考えています。 仮に池田小学校と池田中学校を義務教育学校としても、白沢・利根地区と池田地区では、人口規模が異なるため、池田地区においては児童生徒数の確保が困難であると考えております。
小規模特認校について、きれいごとばかりで言いくるめられている感じがする。もっと早くから言ってもらわないと心の準備ができない。中１ギャップの話もあったが、結局は、吸収合併なので、あまり良い印象がない。納得できない。	一昨年度のアンケート実施、審議会での検討を踏まえ、学校の統廃合は長期的かつ計画的に推進するべきものと認識していますが、急速な少子化により、早めに進める必要があるとの答申をいただいております。保護者や地域の皆様、関係機関等で連携・協働してよりよい教育環境を整備できるよう努めてまいります。
小規模特認校の定員は想定しているか。	現段階では、１学級１５人から２０人程度を想定しています。
池田地区では、今後も住所を移して学校を変える家庭が見込まれる。 池田地区以外の子供が小規模特認校を選択しても池田地区の子供が増える訳ではなく、コミュニティを保てないので、本来の目的ではないのではないか。素案を考え直し、不平等がない案としていただきたい。	小規模校特認校制度を導入することで、希望により市内全域から小規模特認校を選択できるようになり、小規模校の維持及び教育活動の一層の活性化、ひいては、学校が残ることによって池田地区に子供を持つ家族が移住してくる可能性も期待されます。全ての学校が学力向上を目指して様々な工夫した取組を展開しており、統合後においても、長期的な視点で、子供たちの資質や能力を高める取組を充実してまいります。
各地区を回り意見を聞き、その意見を基に素案を立案して説明するのが筋である。	令和５年５月と１２月に保護者等（未就学児等保護者も含める）に対するアンケートを実施しており、延べ４,６００人ほどから回答をいただいております。その後、ＰＴＡ代表、区長、有識者による審議会での協議を重ね、現在の素案を立案したものです。
今回の素案が仮に完了したとしても、すぐにまた統廃合の話になるのは明白である。市内に２か所の学校に集約するプランを現段階で作るべき。	先を見据えて統合をすべきというご意見であると思いますが、通学距離や時間、また、２か所の学校に集約した場合の学校施設の配置場所等の課題があり、今回の素案としております。

【池田地区】

地区別の主なご意見・ご質問と回答・見解

統廃合の目的は、適正規模とあるが、小規模特認校では、目的を果たしていない。保護者や子供の立場を一番と考えてほしい。地区に小学校を残したいという考えにとらわれているが、その考えはない方がよい。	適正規模だけではなく、適正配置の観点から池田地区における小学校の存続を検討したものであります。子供の人数が減る中でも、より良い教育環境を目指して、現在、素案に対してのご意見を頂戴しているところです。多くの地域住民の方が池田地区に学校がなくても仕方ないというご意見であれば、素案の見直しも検討いたします。
池田地区は日頃から自然と触れ合っているので、小規模特認校の特色として、自然との触れ合いと言われても、それほど魅力はない。魅力的に思うのは、むしろ都会の子だと思う。	日頃は、当たり前すぎて気付かない池田地区の魅力と学校での学びを結び付け、家庭や地域と連携・協働して地域の課題を考えたり、池田地区内外へ良さを発信したりするなど、探究的な学びの充実が期待されます。
小規模特認校では、不登校の子供も通うことが想定されると思う。不登校は解消すべき問題だと思うが、それによる池田の子供たちへの影響はどのように考えているか。 また、素案では、池田の子供たちは、小中一貫教育でつながりのできている薄根中学校へ進学することになるが、それは大きな負担になると思われる納得できない。池田地区の子供は薄根地区の子供と比べると少ないので、中学校に入っても意見が届かない場面が多いのではないかな。	環境の変化や人間関係づくりにおいて生じる不安や戸惑いを軽減できるよう、児童生徒同士の交流、不安や悩みに関するアンケート調査の実施と対応、児童生徒が活躍できる機会の意図的な設定など、工夫した取組に努めてまいります。また、子供たちがお互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育む活動を大切にし、やがては思いやりのある学校・地域の風土醸成につなげてまいりたいと考えております。
小規模特認校で行う魅力ある教育を教育委員会から発信してもらいたい。	きめ細かな指導・支援による学力向上、児童の活躍の機会の設定、異学年交流による社会性の育成、郷土の教育資源を最大限に生かした取組の展開など、小規模特認校だからこそ実現できる教育活動のメリットについて発信してまいります。
人口が減っている部分ばかりに目が行っているが、群馬県外から移住者を増やす方法を考えてほしい。また教員不足を解消するために、教員になりたい子供を増やす取組も考えてはどうか。	ご意見について参考とさせていただきます。